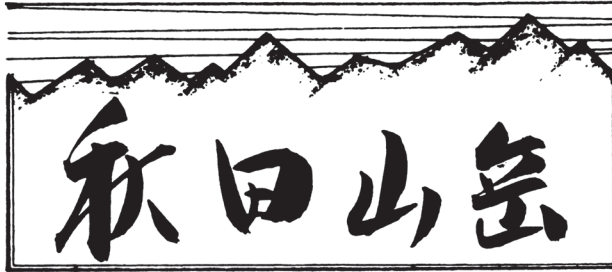


2023



J・A・C



令和5年9月 発行

No. 127

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市土崎港北  
5-3-40 鎌田方

TEL・018-846-8150

発行 秋田支部

編集 鈴木裕子

## 春の支部山行

### 支部山行 岩神山・秋葉山・長根山 小松芳美

三月末の事務局会議で「小松さんが春山行を計画して。大館の三哲山はどう。」の声掛けで私は山行担当の大役を担うこととなった。

四月四日、鎌田副支部長、小松、それと山友二名の四人パーティで大館市十二所の三哲山の下見に向かった。遙拝所から三哲神社までを一気に登るが、物足りなさを感じ、頂上を踏むことなく鳳凰山へと向かった。

長根山運動公園駐車場から大回りコースを選択し、岩神山く鳳凰山く秋葉山を巡る十一km。五時間のコースを下見することができた。下見はしたものの、私は初の山行担当で経験が少ないことから、春の山行をどこのコースにするか悩み、先輩会員のアドバイスを受け「秋葉山と長根山の周回コース」に決定した。

五月二十日、支部員六名と山友九人の十五人が、大館市長根山運動公園駐車場から九時出発。

柳田さんご夫妻と佐藤英實さんは「少年自然の家」駐車場から直接秋葉山に登ることにし、早めに出発。

新緑の岩神貯水池の歩道を進む

と岩神山登山口に着く。予定になかった岩神山（一九二m）へは、ザックをデポしてピストン登山。登山者が少なく、登山道は不明瞭で滑りやすく、山頂が岩峰の岩神山をゆっくりと往復した。

岩神貯水池を回り込み、沼窪神社へ。私は、ルート図を作成していたにも拘らず沼窪神社へ向かうコースを二度も迷ってしまう。ベテラン会員のアシストもあり無事に辿り着いたが、準備不足を反省することとなった。

鳥居をくぐり、やや急と思われる登山道を進むと沼窪神社のご神体「沼の窪」に出て、その先に神社があった。神社隣には相善社があり、木馬が祀られていた。神社裏手から秋葉山へ続く、今日一番の急な登山道を登り、尾根に出ると間もなく、秋葉山（三二八m）山頂に十一時頃に着いた。

ここで記念撮影。支部旗を忘れてきたので、佐藤博さんのタオルを広げて撮影。

秋葉山での昼食は、大館市街を間近に見ながら和気あいあい。登山で痩せるつもりが皆様から差し入れをいただき、体重増となった。十二時頃、下山開始。整備され

た登山道を歩き、長根山を目指す。少年の家近くの展望台脇に長根山（二〇三m）の標柱があった。結果的には、岩神山、秋葉山、長根山の三山を駆け巡ったことになった。

十三時、駐車場で解散。計画段階では天気予報は雨模様だったが、山行日が近づくにつれ、晴れマークも現れ、当日はほぼ快晴。やや強い風もありながら、新緑の樹林帯がこれらを緩和し、登山に適した好天となった。

#### 参加者

鈴木裕子 三浦昭男  
佐藤博、柳田勇悦 佐藤英實  
小松芳美 柳田ルイ子外八名



秋葉山山頂で

山岳古道調査状況

古道調査担当 三浦昭男

○全国山岳古道調査の状況

日本山岳会創立百二十周年記念事業としての古道調査は令和三年に始まり、令和七年度までの五ヶ年計画で進められている。現在は「古道百二十選」として進められている調査も、今年で三年目の大詰めのある年でもある。

本会ホームページ中で山岳古道の立ち上げを準備しており、そのトップページに掲載する古道の名称、概要、写真、略図を先日、本部に報告した。

本部には既に全国支部から二十数件の原稿が報告されていて、ホームページの準備を整えていくとのこと。このような状況下、全国支部の進捗状況と情報交換を行うため、本部と支部との個別のオンライン会議を行うことになった。

○本部と秋田支部との個別オンライン会議  
五月二十二日、午後六時三十分から行われた。

【秋田支部の説明】

白木峠については、追加の現地調査を進めているところで、まとめとしては年内を予定している。鳥海山については、調査内容もほぼまとめの段階となっている。

秋田街道については、岩手支部

と合同調査をしており、まとめは岩手支部。秋田県側に係る調査資料は岩手支部に提出している。

【本部との質疑】

◎白木峠のまとめはいつごろか。  
▲具体的な期日は決まっていなくても出来るだけ早くまとめたい。

◎鳥海山のまとめはいつごろか。  
▲測量も含めたデータもほぼ揃えているが、提出にはまだ時間を要する。

◎矢島街道は、どのような状況か  
▲令和四年四月で矢立街道と矢島街道が推薦古道から外れ、一時保留の話も出ていたが、当支部では調査対象には含まれないものと解し、調査はしていない。

▲秋田側から見れば、江戸への殿様街道として重要な位置付けの道である。しかし、山形側に見れば峰越まで林道を整備し観光地化しており、古道に対する感心は殆どないと思う。だから秋田側だけまとめて一貫した調査にはならないと思う。

矢島街道の今後の取り扱いについては「本部でもう一度考えてみる。」とのことで会議は十八時五十分を終了。

出席者

本部 永田弘太郎 高橋潤一

秋田支部 佐藤助雄 後藤浩二

小松芳美 三浦昭男

▲古道PT本部

七月会議議事録(抜粋)

七月五日十九時～十九時五十分  
ルームおよび zoom

参加者

ルーム 近藤 永田 高橋 松本

zoom 小林 田中 古野 銘苅

泉谷 山行委員会会長

山行委員会メンバー

各支部の古道担当者

秋田支部 zoom 出席者  
小松芳美 三浦昭男

▲原稿等提出の進捗状況(近藤)  
本編用が十三で、神奈川支部・

越後支部・京都滋賀支部は全て提出済。トップページ用は九十三。

▲熊野古道イベント(近藤)  
目的は、日本山岳会会員全員に

古道調査を認識してもらうためにプロジェクトの中心となる大きな

イベントが必要ということ。  
二〇二四年五月十八日(土)に、

熊野古道の中辺路、小辺路、奥駈道を歩く。

▲矢島街道(高橋)

先月、個人で実地踏査をしてきたが、切留本陣跡から秋田側登山口までの二、三kmが刈払いされていなかった。秋田側登山口から

甌峠を通り、山形側登山口に至る部分は一時間くらいで歩くことができ、道の状態もよい。山形側登山口から及位までは、林道と重な

る部分もあり、古道としては不明文献等の資料は、山形県立図書館や真室川町教育委員会にある。

(近藤) 今後、百二十に入れるかどうか検討していくが、もし矢島街道が百二十の古道からはずれるとなると、一部の古道の番号がずれていく可能性がある。

▲次回の会議は、八月二日十九時から。十九時半から各支部の古道担当者も入って行う。

太平山山開き市民登山

七月九日(日)に予定されていた「太平山山開き市民登山」は、雨のため中止。

七月の豪雨災害による

太平山登山道

仁別林道(旭又までの車道)、旭又駐車場及び登山道、野田登山口への林道など、過去にないほどの甚大な被害が発生している。

なお、金山滝から中岳までの木曾石コースや、二手の又コースは多少荒れているが通行可能である。

山頂の山小屋は閉鎖。

(中央地区山岳協議会情報)

第36回東北・北海道地区集會  
青森支部創立30周年記念式典



須々田青森支部長挨拶

七月一日〜二日、八戸市で開催された地区集會には、コロナ禍で四年ぶりの開催でもあるせいか、参加者は一三四名と多く、集會はプラザホテルであったが、宿泊は三カ所に分散され、会場とホテル間は大型バスでの移動となり、集合時間に追われることになった。青森支部創立三十周年式典には新たに就任した橋本しをり本會會長も出席し、お祝いの言葉を述べられた。

懇親会では久しぶりにお会いした各支部の方々や、旧知の会員と交流を深め、楽しいひと時を過ごした。

二日目の朝食は、岸壁朝市で各自が自由に購入して食するという集會では初めての体験であった。

階上岳登山 佐々木民秀

早朝、日本一と言われる岸壁朝市の見学と朝食を終え、晴天の下に一路階上岳への登山口である「しるし平駐車場」へ。

階上岳へは平成十五年に支部有志と共に登っているの、実に二十年ぶりである。

参加者も八十余名と数多く、赤コースと緑コースに分かれて九時頃出発。

秋田支部五名は、赤コースを一班として千葉支部三名等と共に登る。コースは終始樹林帯の緩い斜面（途中、分岐多し、標識は主コースのみで要注意）を登って、小祠と大岩等のある明るい山頂に一時少し前に到着。

緑コースからの班も合流し、山頂は溢れんばかりの大賑わい。樹木が大きくなり、かつての眺望は望めず、八戸方面のみ。

昼食と記念撮影後、緑コースを下山。テレビ局のアンテナが建つ「大開駐車場」から緑コースを更に下って午後一時「しるし平」駐車場へ下山した。

一等三角点のある山頂では、神崎忠男元副會長始め、田辺信行元越後事務局長、千石宮城支部長等、その他多くの面々と久々の会談に、小生にとってはよき米寿の記念登山となった。



千葉支部等と階上岳山頂で

種差海岸散策 堀井 弘

岸壁広場朝市から八時三十分、マイクロボスで参加者三十余名無島へ。山頂にある神社は早朝のため登れず、下の鳥居の前から参拝。無数のウミネコが乱舞していて糞の雨の跡が路面を覆っていて早々に移動。

蕪島から種差海岸まで約10kmの散策である。舗装された路面を歩き水族館を過ぎると海岸沿いの歩道歩きとなる。磯海岸はスカシユリやキジムシロ、ハマエンドウ、ハマナス、ニッコウキスゲ等の群落、ツリガネニンジン、エゾフウロ等が目についた。

葦毛崎展望台を過ぎたあたりの歩道から見える岩々に張り付くようにスカシユリが咲いていて海、

波、岩、花の調和がとても綺麗なった。

鳴砂の大須賀海岸歩きは、砂に足が取られ疲れる。一面黄色で埋め尽くす月見草やハマボウフウの群落は見事だった。

整備された種差海岸遊歩道を歩き、太平洋の荒波に削られた海岸線の岩峰群を眺めながら歩き、ようやく種差天然芝地に十一時三十分頃到着。弁当を広げているとウミネコが近づいてきて、鋭いくちばしで狙って離れない。観光客の餌やりのせいだと思う。

種差インフオメーションセンターからバスでホテルに戻り、午後二時、帰路についた。

参加者

- 階上岳 佐々木民秀 今野昌雄
- 鎌田倫夫 三浦昭男 小松芳美
- 種差海岸 鈴木裕子 堀井弘
- 大船武彦



種差海岸自然芝生地で

### 六月一日 秋田駒ヶ岳山開き

秋田駒ヶ岳の山開き行事は、六月一日、八合目で神事と式典が行われた。

約八十名が参加した記念登山では、男岳の山頂で、南八幡平山岳会高橋吉一副会長と、岩手県国見温泉側から登った雫石山岳協会三浦会長とでピッケルの交換が行われた。

#### 秋田支部関係出席者

佐藤和志 今野昌雄 田口善信  
高橋吉一 鈴木加代子 畠山靖

#### 令和五年度支部連絡会議

令和五年六月八日(木)十九時から二十一時までオンラインで開催。

詳細は次号。  
出席者 後藤浩二 小松芳美

#### 本会通常総会開催

令和五年六月二十四日(土)午後二時から、千代田区主婦会館で開催。オンライン同時。  
(会報七月号第九三八号参照)

#### 会員数情報

令和四年度末

##### ◎会員数

四二八〇名

##### 名譽会員

四名

##### 永年会員

四六四名

##### 終身会員

十四名

##### 通常会員

三五四九名

##### 青年会員

四九名

##### 家族会員

一二八名

##### 団体会員

七二名

##### ◎準会員

二五九名

#### 秋田支部会員数

四十八名

(令和五年四月一日現在)

2023年(令和5年)  
8月11日  
(金曜日)  
山の日

祝日  
山の日

秋田の自然を大切に  
楽しく安全な登山を!

日本山岳会秋田支部

「8月11日山の日」  
秋田魁新報に掲載  
提供 佐藤和志支部長

#### 中央地区山岳協議会総会

##### 報告 小松芳美

六月十日 午前十一時から秋田市三吉神社斎館で開催。

出席者 十四名

秋田支部 小松芳美

他団体から出席の秋田支部会員

佐々木民秀 佐藤博

令和四年度事業報告、収支決算

報告及び監査報告、令和五年度事業計画案及び収支予算案、大平山

山開き登山会などについて話し合

われた。

課題として、協議会の予算がい

ずれは逼迫することが予想される

その理由の一つとして、秋田市ス

ポーツ協会への負担金が年額一万

円に引き上げられたことにあり、

今後は同協会からの脱会を含め検

討が必要である等。今後も協議会

が連携することを確認した。

また、佐々木会長からの依頼も

あり、私が「太平山ザ・ブーンコ

ースのヤマヒル調査」について資

料を配布し説明して、ヒルに対す

る関心を高めた。

昼食をとりながら、出席者が自

己紹介し、各団体の活動状況等を

報告し、懇談した。

私は初めての出席でしたが、各

団体会員との親睦を深めたことは今

後の山行に大いに役立つものと確

信した。

#### 秋田県山岳連盟総会

四月三十日(日)午後一時からイヤタカ会館で開催。

秋田支部関係出席者

高橋守 今野昌雄 後藤浩二

高橋吉一 畠山靖

#### 会務報告

##### ○事務局会議

・六月一日(木)午後一時から。

会報百二十六号等発送。

・九月一日(金)午後一時から。

会報百二十七号等発送。

秋田市泉コミセンで開催。

出席者 鎌田倫夫 後藤浩二

三浦昭男 小松芳美

#### 編集後記

七月の記録的豪雨により、秋田市及び県内各市町村では河川の氾濫等で大きな被害があった。

猛暑の中、被災された会員の方には心からお見舞い申し上げます。太平山の登山口へ至るそれぞれ林道等の破損、奥岳への登山道の崩壊も大きく、修復には数年かかるともいわれている。

市民登山は雨で中止となり、高齢の私には、もう奥岳には登ることは無いのではと思うと、とても寂しい。  
鈴木裕子